

2009JPHMA 京都コンGRESについて由井寅子学術大会長に聞く



いよいよ待ちに待ったホメオパシーの全国大会第10回 JPHMA コンGRES in 京都が開催されます。大会を目前にした今の心境、また2010年、2011年の世界大会に向けてのホップの年となる2009年度大会の意気込みを、由井寅子学術大会・大会長に聞きました

聞き手：いよいよ開催の日が近づいてきました。多くの方が注目していると思いますが、京都コンGRESの見どころについて教えてください。

由井（学術大会長）：今回のコンGRESは京都の国立京都国際会館で行われますが、この会場は、歴史的にも国際的な重要な会議や学術大会が開かれてきた日本を代表する国際会議会場です。このような会場で私たちがホメオパシーの大会を行うことができるということは、十数年前には想像もできないことでした。先日会場を下見に行ったのですが、実際に素晴らしい会場を目の当たりにして、日本でもホメオパシーが大きく広がったのだと実感し感無量です。そして、これだけ大きく素晴らしい会場を借りるのですから、JPHMA 会員のみならず、医療関係者、学校関係者、各種療法家、一般の人々など1000人以上に集まっていただき、大盛況にしたいと思っています。昨年は東京で開催し、700人の方々に集まっていただきましたが、会員の6割近くが関東近辺です。関西以外の会員が8割以上の中で、全国から集まっていただけるだけの内容の濃い大会にしていかなければならないと思っているのです。

ホメオパシー医学の可能性 ～鍼灸などとの併用で広がる職業の幅～

由井：そこでホメオパシーの可能性はとても大きいということを知ってもらうために、鍼灸、マッサージ、整体、ボディワークなど他の療法、あるいは、美容や農業といった分野へのホメオパシーの応用について、それぞれの職業の専門家ホメオパスの方から発表してもらおうということになりました。以前、鍼灸師の方にどのようにホメオパシーを取りいれているか質問したとき、ホメオパシーを使うことでクライアントの治り方に変化があり、鍼灸師としての仕事の幅がとて広がったという話を聞きました。実際、他の療法を行っているホメオパスの方々からも、ホメオパシー導入後、クライアントからの評判もよく、客層も広がり、人気が出るという話をよく耳にします。そこで鍼灸に限らず、他の療法にホメオパシーを加えることで、問題へのアプローチの可能性が広がることを多くの療法家の皆さんに知ってほしいと思ったわけです。ホメオパシーは、急性病、慢性病、事故や怪我、心的外傷、心や精神や感情の

問題、妊娠・出産・育児、難病、アトピー・喘息・アレルギー、発達障害、動物・植物・土壌・水質、霊的問題、ターミナルケアなど、ありとあらゆる問題に対応できるからです。

心の問題と発達障害など難治疾患のケースを発表

由井：私は昨年に引き続き、自閉、多動、アスペルガーなどの発達障害の新たな成果を発表します。また、癌や潰瘍性大腸炎、心の問題、とくにインナーチャイルドの問題についても発表する予定です。また、全国で活躍する多くのホメオパスたちが、胆石がレメディーで排出したケース、性的虐待が原因の不妊でレメディーによる心の解放で妊娠ができたケース、発疹と気管支炎を繰り返すアレルギーなど、多くの難病を治癒に導いたケースを発表してくれる予定です。

食も正さなければ、健康にはなれない

由井：それから「食」についても取り上げます。私たちは、よくホメオパシーのレメディーを使ったら、健康になりますよと言ったりしますが、結果的に本人の「食」が悪かったら、もとに戻ってしまうわけです。どのような食事をし、どのようなものを食べるべきなのか、この「食」とホメオパシーというテーマも今回取り上げていきたいと思っています。

今年は医療関係者やクライアントなどホメオパス以外の方も参加し発表

由井：こういった流れの中で今大会では、小児科医として、予防接種や薬、子育ての問題に取り組んでこられた毛利子来医師、また千葉のセントマーガレット病院内のホメオパシーを含めた統合医療外来で、医師とホメオパスがそれぞれの専門技術を生かし、一緒にクライアントを治癒に導くお仕事をさせていただいている酒向猛医学博士、それからインナーチャイルドのケアなど、心理カウンセラーとして活躍されている斎藤啓一先生、また、妊娠・出産からホメオパシー子育てに取り組んでおられる漫画家の桜沢エリカさんなども発表を行います。これまではホメオパスによる発表ばかりでしたが、今回は現代医学を行う医師や心理カウンセラーの視点からみた発表も聞くことができ、私自身大変楽しみにしています。たとえば、予防接種について、現場で経験されてきた医師の毛利先生から具体的なお話が聞けることを楽しみにしています。

さらに、今回はホメオパシーで発達障害、潰瘍性大腸炎、高齢の関節炎など、実際に病気が治癒した方々が、私はこのようにして治りました、という体験を自ら話してくれます。

日本ホメオパシー財団設立について

由井：今年は初めて kongress を 2 日間かけて大会をやります。イベントとして日本ホメオパシー財団設立記念パーティーを行います。財団設立は、日本でホメオパシーが国に認められるための大きな前進といえます。ですからこの記念すべき嬉しいパーティーを大会初日の夕方、6時半ごろから行います。当初、日本ホメオパシー医学協会では、日本の認定ホメオパスたちが、ホメオパスという職業を安心して遂行することができるよう、ホメオパシー先進国では標準となっているホメオパス職業保険を日本で成立させるということが大きな目標としてありました。2005年に、念願のホメオパス職業保険が成立しましたが、これはホメオパスという職業が社会的に認められたことの証明であり、ホメオパスが万のときにクライアントに責任を果たすことができるということで、プロの療法家としての定義をクリアすることができ、社会的に職業として確立した記念すべき出来事でした。そして現在、国に認められるということが目標になっているわけです。しかし、日本でホメオパシーが鍼灸のように国に認められた療法となるためには、さまざまな課題があります。たとえば、原物質がないレメディに効果があることを科学に説明することができません。また、欧州やインドのように、昔から日本にあったものではありませんので、これまでなかったものを国や行政で、どう認めていけばよいか分からないというのがまだ日本の現状です。世界では、ホメオパシーを国家が認めていこうという動きがあるわけですが、日本はまだ欧州などに比べ遅れていると思います。その中で、10年以上努力しましたが、国が直接的にホメオパシーを認めるといってもまだ無理があるのだということがよくわかりました。そこで、私は日本ホメオパシー財団をつくって、この財団を国に認めてもらう形が近道ではないかと考えました。今やっとその念願の財団ができあがりましたので、半分国から認められたような気持ちでとても嬉しいのです。そして、これから、JPHMAの認定ホメオパスは日本ホメオパシー財団が認定するホメオパス（同種療法士）であるという形になりました。

kongress では一般の方にもホメオパシーのすばらしさをもっと知ってもらいたい

由井：だから、もっともっと私たちが病める人を治癒に導いて、そして、この国には無くてはならない療法家として、ホメオパシーの同種療法士として、職業的地位を日本で確立させていかなければならないと思っています

そのために今回は会員でない、多くの一般の方にも来てもらいたいと思っています。今までは、専門家の人々だけで、ある意味、自分たちの自己満足（笑い）でやってきたのかな。

これからはもっともっと開かれたホメオパシーで、一般人にも来て頂き、ホメオパシーはこんなところにも効果があるのだと、応用できるのだということを、多くの方に知ってもらうために、ホメオパシーで多くの治癒に導いた症例をだしたいと思っています。

全国の JPHMA 認定ホメオパスがケースを発表

由井：JPHMA 会員からも、100近くのケース発表やポスター発表を行います。会員の中から発表を募りましたら自分も出したいという会員たちの意気込みがすごく見えて、会長の私はとてもうれしかったです。提出された100ケースを全部見ましたけれども、やっぱり圧巻というか壮観というか、どういえばいいんですかね、よくぞここまで治したなと思うケースばかりでした。だから、彼らの発表の場を設定し、こういうものは抄録集にしたり、大会後は論文集にして、世の中に出していきたいとは思っています。そしてそれを何らかのかたちで、皆さんの目に留まるような形にしていけば、国民からホメオパシーという同種療法士は必要だと思ってもらえると思うのです。そのきっかけとなるのが、この今回のコンgresだと思えます。去年の大会には、700人のうちの半分、約350人の一般の方が来てくれたので、今年はずっと多くの方々にホメオパシーのすばらしさを知っていただきたいと思えます。

ホメオパシー教育での日本の先進さが認められました

由井：実は3年計画というのがありましてね、2011年に向け、ホップ・ステップ・ジャンプと大会のポスターにも書いてありますが、今年の4月に私がホメオパシー国際評議会のベルギーでのミーティングに日本のホメオパシー職業団体の代表、そしてホメオパシースクールの学長として呼ばれました。今回の欧州訪問には目的が2つありまして、1つは、世界のホメオパシーの教育のスタンダードをどういう風に決めるかということで、実は、これは本当に私もやりたかったことでしたので、この教育シンポジウムに1日目に出席し、約100名の世界のホメオパシースクールの学長やホメオパシー協会の代表の前で、日本のホメオパシー教育について発表させていただきました。また各国で取り組まれているさまざまなホメオパシー教育（専門家育成）のあり方とか、取り組みを見せていただき、これを一本化するのにはすごく難しいなと感じたわけです。つまり、ある学校では学ぶ日数も多く、ものすごく勉強しているし、ある学校では学ぶ日数が少なく、それほどきっちり勉強していなかったりということがあります。でもこれを一本化していきませんかというホメオパシーというのは職業化しないと私は思っているのですよ。ですからこの世界ホメオパシー教育シンポジウムミーティングは非常によかったと思っています。今回発表した中でも、ホメオパシー後進国と思われていた日本のロイヤル・アカデミー・オブ・ホメオパシー（RAH）の教育が実はとても先進的な取り組みをしており、各国の代表が一様にびっくりされました。とくにノルウェーのホメオパシーの学校の校長先生からは、RAHの授業内容を英語にして教科書をつくってくださいと要望されたわけです。つまり、ホメオパシー専門家教育用の世界標準の教科書を作り、みんながそれに従っていけばホメオパシー教育が一本化できるのではないかと、その世界標準の教科書をRAHの授業を元に作ったらよいと言われたのです。とても栄誉なことですよ。私もこれに向かってがんばっていこうと思っているわけです。みんなは治すホメオパシーを求めているのですよ。

日本のJPHMAがホストとなりICH初のホメオパシー国際カンファレンスの開催が決定

由井：二日間が教育シンポジウムを行い、3日目がホメオパシー国際評議会（ICH）の総会でした。

ICHとは世界28カ国のホメオパシー団体から成り立つ協会で、各国の団体の代表者が集まって、これからどのようにICHとして活動を行っていくか、すなわちホメオパシーをどのように世界に広めて

いくつかを検討する会議だったのですが、この会議の席で私はこのように発言しました。「今まで私達は孤独であった。日本は日本、インドはインド、アメリカはアメリカというように、各国のホメオパシー団体は、孤独で何も助けることができなかった。このICHができて、私達は二年に一度会って、様々な国の問題も話し合うけれど、この会が終わってばらばらになっていくという感覚をどの国の人も持っているはず」と。だから「ICHとはここにありということを確認していくためにも、ICHのコンファレンスを開きませんか」と私が提案したわけです。そして2011年に日本でやりませんか、そして28か国のホメオパスたちが日本へ、われもわれもとこぞって来てくれてそして、自分たちの国に起こっている問題や、病気をこのように治しましたという発表を日本でしませんかという提案をしたわけです。そして満場一致で、日本に行くよと言ってくれたわけです。ICH総会は二年に一度の開催です。たったの二年の準備期間しかありませんが、JPHMAがホストになって、2011年にホメオパシーのICHの初めての国際コンファレンスが日本で開催されることに満場一致でOKになりましたのもものすごく嬉しかったですね。だからもう私たちは一人ぼっちじゃないんだということ。みんなで発表しあいましょうということ。国をこえて。

これはものすごく大きなことになると思います

でも条件出されましたので。私は日本国内で1500名を集めなければならない。で、彼らは自国から、彼らのパートは27カ国で600名を日本でコンファレンスに参加させるという約束をとりつけたわけで、総勢2100名で開催しよう。嬉しいことに、ホップ、ステップ、ジャンプですから、京都はホップなんですね。ですからぜひとも成功させたいと思います。来年の2010年は東京で行います。そのときは、ICHの会長と副会長（※前任の職、総会開催時の会長、副会長で現在はヨーロッパ中央ホメオパシー評議会の会長と秘書官を務めている）が来ます。2010年は予行演習ですので、1500名くらいは集めて実施したいと思っています。ステップとジャンプは東京で同じ会場で開催しようと思っています。ですから今年は「ホップ」、幅跳びならば、一番最初に跳躍するときの踏ん張らないといけないその時期が今年ですので。会員も私もがんばっていいケースを発表したいと思っています。

日本でのホメオパシーのニーズ

聞き手：国際的にもホメオパシーの必要性が高まっているということですか。

由井：ホメオパシーは、自己治癒力を触発するものだから、誰が治すわけでもないのですよ。で、治す本人は自分なわけです。だから私はこういう療法は素晴らしいと思っています。誰かがかわりに治すことはありえないと思っています。他人に自分の人生や、他人に自分の体の健康や心の健康をゆだねないということです。

実際、何かの間違いがあって病気になったわけですから、何を間違えたのかというのは自分が一番理解することが大切なのです。また、更なる心の向上をしていくことです。そして、人間は、辛いことや、悲しいことを、苦しかったことをこのように経験して、よりよい大人になっていくし、心も成長していくことをお手伝いしなければならないと思っています。

それを導いていけるのがホメオパシー療法だと思っているのです。こういう療法が日本にこれまでなかったわけですから、日本に導入されることが日本国民の恩恵には必ずなると信じています。その者がその者らしく生きられるようになることがホメオパシーですから、レメディーをとって、これまで何か遠慮して生きてきた人がだんだん自分の意思で辛辣に言えるようになってしまったと、それで、前のような良い嫁ではなくなったと、私もその夫から文句を言われたことがあるんですけど、奥さんが我慢して旦那に気をつかって、小さくなって胃潰瘍になるよりは、奥さんも胃もしっかりして言いたいこともばりばり言ってね、お互いが尊敬し合って生きられるようになったらいいなと私は思っているのです。自己卑下することもなく、偉そうになることもなく、等身大の自分で生きられるようになる。それがホメオパシーと思っていますので、皆が自分らしく生きられたらいいなと思っています。

ホメオパスが終末ケアを担うべきです

聞き手：セントマーガレット病院との提携で、ホメオパスとして終末ケアというものに取り組みまれているとお聞きしておりますが。

由井：死に行く方への終末ケアというのは、すごく大事だと思うのです。私はこの仕事をホメオパスに任せてくれたらいいなと思っています。みんな嫌な仕事ですから。事実は事実として、もう命は短いのだということを亡くなられる方に受け入れさせていかなければならないと思っています。「いつまでも希望がありますよ」という伝え方では、その人のためには、何にもならないと思うのです。

やっぱり「死」という事実を受けとめていって、その中で、一日一日を十年のごとく一生懸命生きることが大事だと思います。限りある命だから一日一日が大事だと思うのです。だから「死」を理解させて、真剣に生きねばならないだってことが大事なのです。もちろん、本当に病気になって真剣に生きることは結構大変なことです。

だからそうなる前に本当は、このことに気づかなければならないのです。実際にそういう状況に遭遇した場合に、「今、誰かに言いたいことは無いか」と私がいろいろ話を聞いていきますと、「実は喧嘩別れた友達に、謝りたいんだ」というようなことを言う人は結構多かったのです。そうして私が名前書いて下さいと言って、その人を探してあなたの言葉を言うておきますからと言うと、ものすごく安心して、その後お亡くなりになられたこともあります。このように、実はやすらかに死ねない理由は何かっていうと、こういった未解決なものが心の中にあるのです。そう言ったことを言い残す人が、誰も言う人がいないというか。そういうのをホメオパスが聞いてあげるっていうのが大事だし、心の秘密がしゃべれるようにレメディーを出せることが大事だと思うのです。最後に未練なく、これを言って楽になったという人は結構多かったですよ。

だからこういう、心の中の「秘密のあっこちゃん」を吐き出して亡くなられるか、心の「秘密のあっこちゃん」を持ったまま亡くなられるかは次の世代、次の生、来世に関係してくるのではないかと思います。心の中の「秘密のあっこちゃん」を吐き出して逝ったらね、荷が重くなくて楽だよ、三途の川を渡るときに、そういうお手伝いがホメオパスにはできると思うのです。それはこの職業としてのホメオパシー健康相談での質問の仕方がこういった感じなので。また、職業として、私たちは死にゆく方に対処するためのホメオパシーのレメディーを持っているということです。ゆえに死にゆく方のためのケアをやるとい

うことがホメオパスにはできるのではないかと思っているのですよ。未練なく死を受け入れるレメディーがあるということがとても大事です。

死にゆく方に希望を持たせる現代医学の方 看護師さん、お医者さん、こういう役割を持った方もおられますが死にゆくときは、そういう希望を持たせても仕方がないときもあるのです。余命いくばくないのは本人が一番よく分かってるのです。だから、そこを見つめていかせるやり方として、導けていけるやり方として、ホメオパシーがあるのかなと思っているのです。だからホメオパスの役割がすごく大事な時代になってきていると思っています。だからこそ、そういう、「送りびと」ではないけど、私たちのような職、みんなが一番嫌がる職かもしれないけど、私達ホメオパスが、やらせていただければいいなと思っているのです。だから、ホメオパスの場合はレメディーを与えることができるというのはすごい強みだと思います。

例えば、死ぬときに、苦しさの中で、痛くてね、それをやわらげることもできるし、そして秘密のあつこちゃんもしゃべっていただくことができるし、ホメオパシーのレメディーとると、ぽろっとみんな言うのですよ。その上、私たちには人に質問する技術と死を受け入れるレメディーがあるわけですから使わない手はないと思っています。

「ホメオパシーに YES」 アクション・ホメオパシー署名活動について

聞き手：さきほども少し話が出ましたが、はじめて ICH の総会に世界の国々のホメオパシーの代表が集まった際に、由井大会長が、ホメオパシーが広がっていくには、各国の国民がホメオパシーを支持してやっていくことが一番大切だと提案されたと聞いています。この提案でイギリスとか、いろんな国でも、ホメオパシーに YES という署名活動が始まったと聞きます。スイスは 8 割の人がホメオパシー使った経験がある、ホメオパシーの盛んな国ですが、憲法に基づく国民投票で国民の 67% が賛成、反対が 15% と、圧倒的な支持で代替医療としてホメオパシーが承認されたそうですが、署名活動についてはどうお考えですか。

由井：世界各国のホメオパスたちというのは不思議なことに、専門家の目でしかものを見ない傾向があるのです。ホメオパスという専門家同士で集まって、何かをやってホメオパスでない一般人やクライアントなど、こういう人たちにあまり働きかけることはしないのです。しかし私は、日本でホメオパシーをどうやって広げようかと、十数年前に考えたときに、要するに、一般人に教える教育と、専門家を養成する学校と、2 つの柱で進めなければ日本では広がらないと考え、実行したわけです。というのも日本では最初、ホメオパスは私しかいませんでしたから、どうしても一般人に教育してセルフケアができるようになってもらうしかありませんでしたから。結果的にこれがよかったと思っています。ホメオパスにかからなければホメオパシーとの接点ができないというのでは、やはり広まっていきません。セルフケアを推進することでホメオパシーを利用する人口が増え、その結果、多くの人がホメオパシーを利用するようになり、必然的にプロのホメオパスを利用する人も多くなっていきます。しかしホメオパシーが当たり前になっている国というのは、どうも一般人に教育するというのを忘れてしまう傾向にあるのですよ。だから、ホメオパシーに賛成（ホメオパシー療法、あるいはホメオパシー的生き方・考え方をよ

いと思って共鳴する人) という署名をしてもらい、国民の支持を具体的な数字であらわすことができれば、これだけの数の人がホメオパシーをよいと思ってくれているのだということがわかり、ホメオパシーがより存在感をもち、日々増え続ける署名の数、それ自体がホメオパシーを推進する力となっていくと同時に、さらに広まったり、根づくためにとてもよい方法ですと言って提案したところ、イギリスでは、会議が終わった後、すぐやったのですよ。そういう私の日本では最初、JPHMA内で賛否両論あって、提案してから実行するまで時間がかかりました。今は2011年10月の国際大会までに10万人の署名が集まることを当面の目標としています。それにはまだ程遠いですが、現在7000人弱の方の署名が集まっています。10万人というと日本の人口のだいたい1000分の1ほどですが、ホメオパシーYESが10万人になったら日本は変わるのではないかと思います。同時に国に認められる力にもなっていくと思います。JPHMAのホームページに詳細が掲載されていますので、ホメオパシーYESにご賛同いただける方は、是非、署名活動にご協力をお願いします。